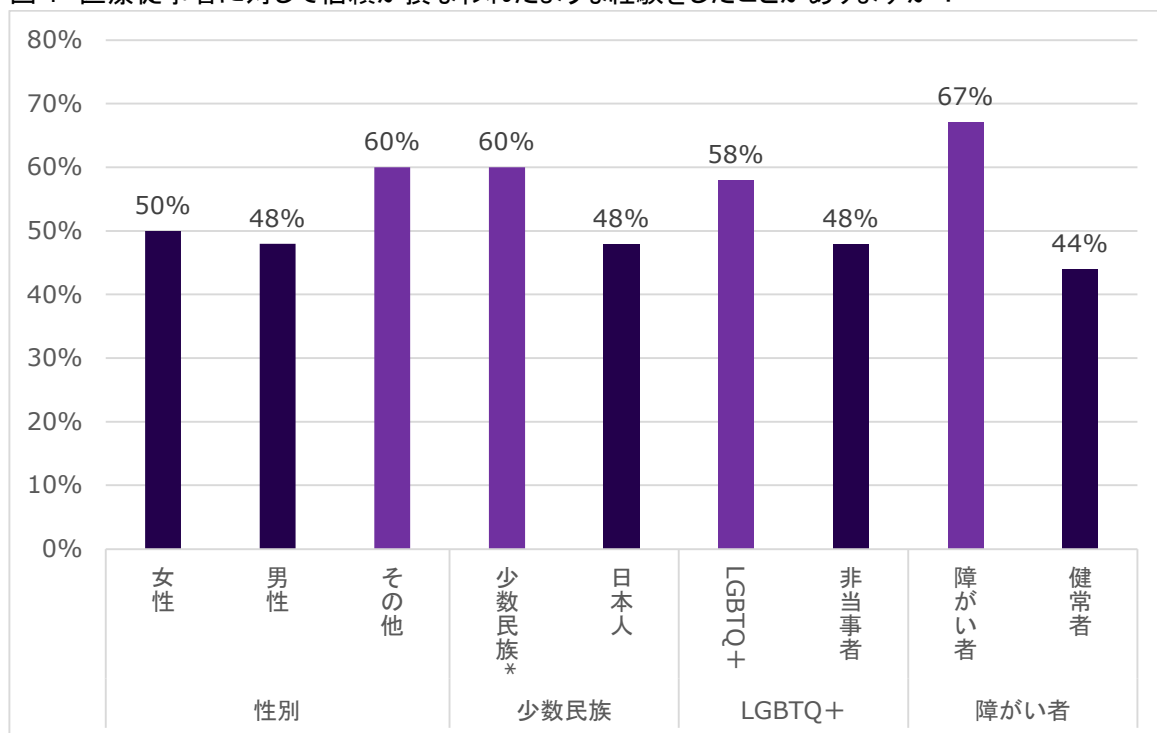


## 医療への信頼度調査：日本は障がい者の方が一番低い結果／ LGBTQ+などマイノリティに属する方々も総じて低く - 日米英仏伯5カ国で、マイノリティの医療に対する信頼度調査を実施 -

サノフィ株式会社(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：岩屋孝彦)は、サノフィ(フランス・パリ)が日本、アメリカ、イギリス、フランス、ブラジルで実施した医療への信頼度調査を発表しました。グローバル全体としてマイノリティ(少数民族、LGBTQ+、障がい者など全体に占める割合が人口比率より低い属性)に属する方々の医療に対する信頼度が低い傾向にあることが分かり、半数以上の方々が医療従事者や医療制度に対してネガティブな経験を1回以上していました。特に日本では、障がい者の方が医療従事者や医療制度に対する信頼が損なわれた経験をしたことがあると回答した割合が高かったことが分かり、少数民族\*、性別を「その他」とした方、LGBTQ+の方でも同様な経験を多くしていることも分かりました。なお、本調査結果のLGBTQ+に関しては、6月9日に開催されたLGBTQ+アライの啓発アライアンス「Pharma for PRIDE」による勉強会で発表を行いました。プレスリリースは[こちら](#)をご参照ください。

日本では、「医療従事者に対して信頼が損なわれたような経験をしたことがありますか？」という問いに、障がい者の67%があったと回答しました。在日外国人などは60%、性別を「その他」とした方で60%、LGBTQ+の方で58%となり、過半数となりました。

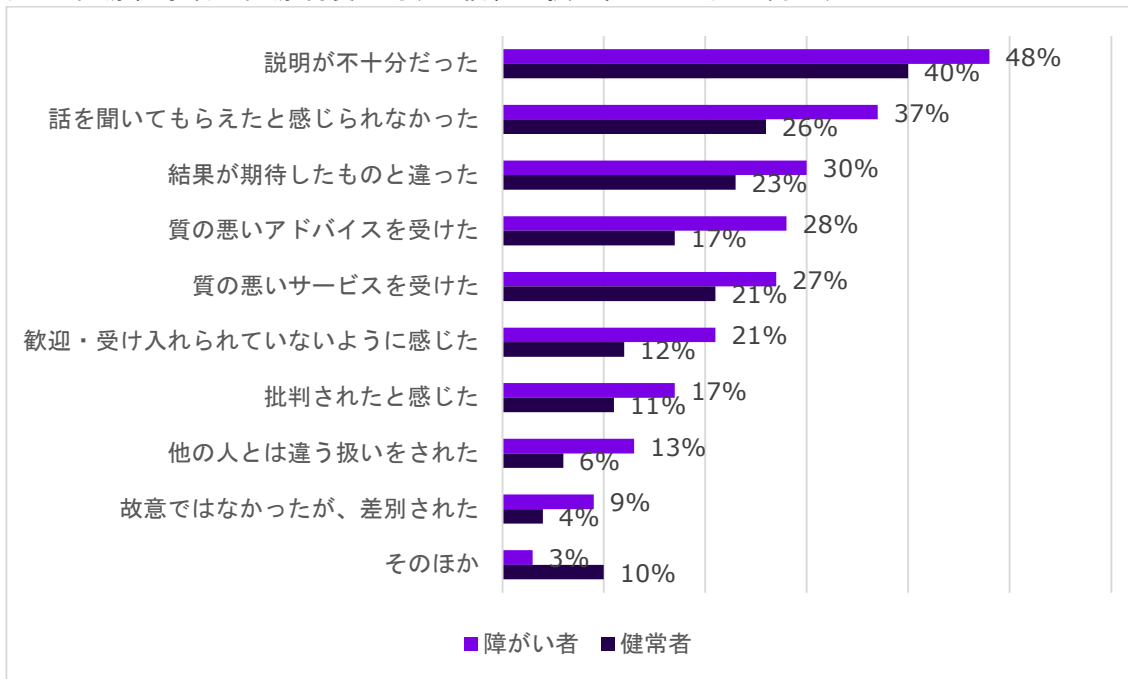
図1 医療従事者に対して信頼が損なわれたような経験をしたことがありますか？



### 障がい者の医療従事者・医療制度の信頼が損なわれた要因トップは「説明が不十分だった」

日本の障がい者で医療従事者や医療制度の信頼が損なわれたと回答した方の要因のトップ3は、「説明が不十分だった」「話を聞いてもらえたと感じられなかった」「結果が期待したものと違った」でした。どれも健常者よりも回答割合が多くなりました。

図 2 医療従事者や医療制度に対する信頼が損なわれた理由は何ですか？



また、同様の質問を LGBTQ+ 当事者にしたところ、「他の人とは違う扱いをされた」「故意ではなかったが、差別された」がそれぞれ 12% となり、非当事者と比べて 2 倍近い結果となりました。さらに、複数のマイノリティグループに属する人は、医療従事者や医療制度に対して信頼が損なわれたような経験をする人が多いことも分かりました。

図 3 医療従事者に対する信頼が損なわれた経験をしたことはありますか？

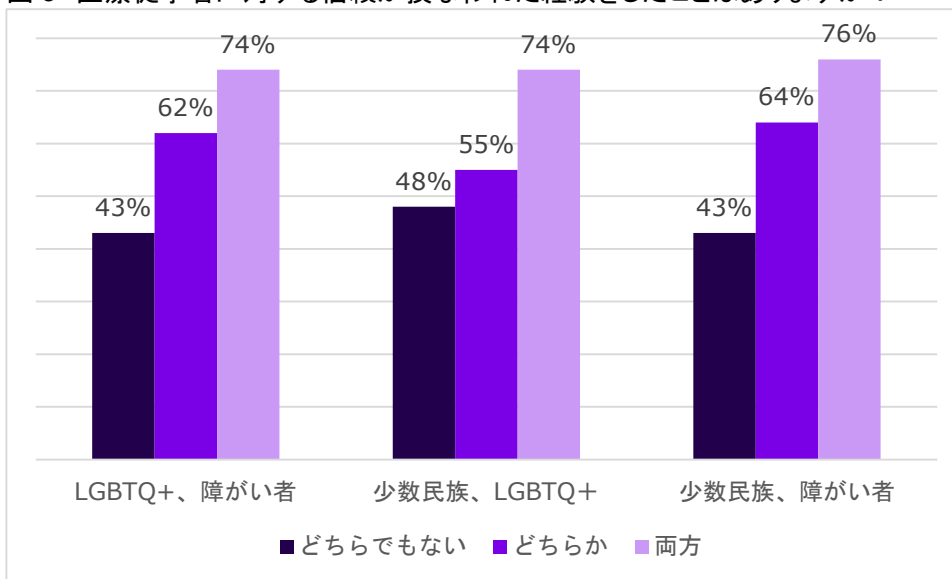
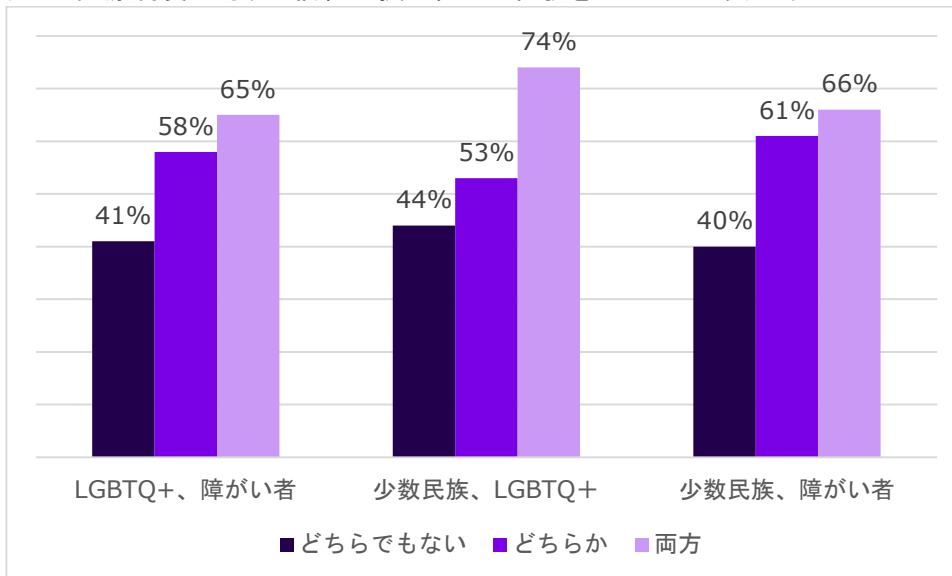


図 4 医療制度に対する信頼が損なわれた経験をしたことはありますか？



このように、マイノリティの方々は医療への信頼が損なわれたような経験をしてきたなかで、医療従事者への信頼が高まることについて聞いたところ「信頼でき、頼りになる」が 71%とトップになりました。そのほか「医療従事者から公平に扱われる」「共感、理解、優しさを示してくれること」「自分の懸念を伝える機会を与えられ、かつ改善を約束されること」などが上位に入りました。

#### フランスでは医療従事者に対する信頼が損なわれた経験について、LGBTQ+と非当事者で差はなし

日本以外の国々でも、マイノリティに属する方々が医療従事者や医療制度について信頼が損なわれた経験をしていますが、国によって違いが出ています。

アメリカでは、障がい者と性別をその他と回答した方々が、医療に対する信頼が低くなり、イギリスでは 2 つ以上のマイノリティグループに属している方々の信頼が低いとの回答が顕著でした。

フランスでは障がい者と女性で医療従事者への信頼が損なわれた経験が多くなっている一方で、LGBTQ+と非当事者間では大きな差がありませんでした。ブラジルは 5 ヶ国の中で最も医療への信頼が低く、79%の人が「信頼が損なわれた医療経験をしたことがある」と回答しています。

本調査は、サノフィが The Brand and Reputation Collective (BRC) と Purpose Union に依頼し、2022 年 7 月 27 日から 8 月 25 日にかけて、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ブラジルの 5 ヶ国 11,525 人の少数民族\*、LGBTQ+、障がい者など全体に占める割合が人口比率より低い属性のグループを対象に実施されました。

本調査結果を受け、サノフィはこうした人々の医療に対する信頼を構築を目標に掲げ、5,000 万ユーロ(約 69 億円)を投じて「A Million Conversations」という取り組みを開始しています。

\*日本では少数民族や在日外国人など

#### Pharma for PRIDE について

サノフィ、アッヴィ合同会社、アラガン・ジャパン株式会社、アレクシオンファーマ合同会社、アストラゼネカ株式会社とともに設立した啓発アライアンス。LGBTQ+をはじめ、誰もが安心して働ける心理的安全性の高い職場・業界を実現するため、より多くの社員への啓発に加え製薬業界全体での啓発を目指すことを目的に 2022 年に発足。

#### A Million Conversations について

「A Million Conversations」は、少数民族、女性、障がい者、LGBTQ+など全体に占める割合が人口比率より低い属性の人々と医療関係者との信頼関係の構築を目標に掲げ、5,000 万ユーロ(約 69 億円)を投じて 2030 年まで継続するサノフィの新たな取り組みです。本プログラムでは、上記の属性の人々との対話を活性化する機会を設けるべく、まずはブラジル、フランス、日本、英国と米国の 5 ヶ国で活動を開始します。この活動には、医療現場で偏見や差別的な経験をしたことのある方々、(政府関係者や NGO も含む)地域医療の代表とサノフィの従業員が参画し、広い視点でヘルスケア業界の政策や考え方に変化をもたらすことを目的としています。参加者は、信頼関係を阻む原因についてさらに研究を深め、今

後の改善策を検討していきます。サノフィは、Trust and Inclusion Report の年次報告にこの活動で取り上げられた内容や実行可能な解決策、並びに 2030 年に向けた目標への達成状況を示していく予定です。詳細は <https://www.sanofi.co.jp/ja/our-responsibility/diversity-equity-and-inclusion/a-million-conversations> をご参照ください。

#### サノフィについて

サノフィは、人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する、というゆるぎない使命を原動力に進み続ける革新的でグローバルなヘルスケア企業です。約 100 カ国の社員は、医療を変革し、不可能を可能に変えるため、日々研鑽に努めています。私たちは、社会的責任と持続可能性を企業の本質とし、画期的な医薬品や生命を守るワクチンを開発し、世界何百万もの人々に届けていきます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。